

総合2026  
活動家宣言 <We act !>  
～ギャップから始まる、私たちのアクション～

第13回 10月 1日(木)13:00～14:30  
知の限界を超え、未来の社会基盤を創る！  
ーICTの研究を両輪で進める研究職と総合職のリアルー  
NICT シリーズ講演②



岡本 拓磨 氏

NICT2012年入構。研究職。同時通訳された多言語の音声混ざることなく、再生エリアごとに一つの言語を聞くことができる「音声マルチスポット再生技術」の研究開発に取り組んでいる。



桑原 万苗 氏

NICT2019年新卒入構。総合職。企画戦略等の業務を経て、2023年から米カリフォルニアの NTT Research, Inc.へ1年間出向。現在は人事関係の業務に携わる傍ら、「音声マルチスポット再生技術」の社会展開に取り組んでいる。



坂本 舞衣 氏

NICT2023年新卒入構。総合職。大学院で科学技術コミュニケーションを専攻後、NICTにて広報業務に従事。現在は B5G/6G を推進する研究部門で事務系業務に取り組む傍ら、NICT のブランディング施策を進めている。

<NICT（情報通信研究機構）について>

NICTは、ICT分野を専門とする我が国唯一の公的研究機関です。NICTでは多様な人材の活躍を推進するとともに、多摩地域をはじめ、各地の大学や教育機関との連携を通じて、将来の研究を担う次世代の理工系人材の育成に取り組んでいます。本講演は、同じ多摩地域に所在する津田塾大学とNICTの連携の一環として企画したものです。

<担当スタッフより>

岡本さんは、これまで存在しなかったマルチスポットスピーカーを生み出す中で、未知の技術に挑戦し、理想と現実のギャップに向き合いながら形にしていっていった方です。桑原さんは、研究者を支え、社会と研究をつなぐ総合職として、異なる立場の人々の間に立ちながら理想を現実へとつなげている方です。そして坂本さんは、最先端の研究を社会に伝え、組織の魅力や未来を形にしていける仕事をされています。三人は異なる立場で活躍されていますが、それぞれが「こうしたい」という理想を持ち、行動しています。

今回の講義では、岡本さんには研究活動を進める中で感じた「ギャップ」について、桑原さんには研究者が追い求める「理想」とそれを実現するフィールドとなる社会における「現実」を繋ぎ合わせる役割について、NICTで総合職として勤務されている坂本さんとの対談形式でお伺いします。三人の挑戦や仕事への向き合い方を知ることで、自分自身の「やってみたい」という思いを見つかることができるでしょう。そして、理想と現実のギャップに気づいたとき、諦めるのではなく「自分に今できることは何か」を考え、一歩を踏み出すことができるはずです。理想を現実にするために自分はどう行動するのかを考えてみましょう。

会場：津田塾大学小平キャンパス特別教室